

日本と香港：学術協力の理想的なパートナー

世界的に有名な大学、充実した学生交流プログラム、そして世界最高レベルの知性を輩出する地という定評のある日本と香港は、教育および研究での協力における理想的なパートナーです。

日本と香港を合わせると、2018年QSアジア大学ランキング上位20位に9大学が入っています。現在、日本と香港の大学の間では、食品や農業から、音楽、気象予報、医療および高齢者介護の分野にいたるまで、100を超える共同プロジェクトが実施されています。

その一つが東京工業大学と、香港中文大学ジョッキークラブ老年学研究所所長を務める胡令芳（ジーン・ウー）教授の共同研究で、セラピー用アザラシ型ロボット「パロ」の香港での導入・利用につながりました。アニマルセラピーと同様の効果を持つパロは近年、認知症患者の治療に用いられています。東京工業大学の柴田崇徳博士によって生み出されたパロは、沙田病院や一部のNGOが認知症患者の治療に採用しています。



セラピー用アザラシ型ロボット「パロ」を囲む、開発者の東京工業大学・柴田崇徳博士（前列中央左）と、香港中文大学ジョッキークラブ老年学研究所所長の胡令芳（ジーン・ウー）教授（前列中央右）。

他にも、香港城市大学英語科のバーサ・デュバブコック（Bertha Du-Babcock）博士と明星大学の田中宏昌教授との間で、異文化コミュニケーションに関する共同研究が進められています。一方、香港教育大学の劉月瑩（エステル・ラウ）博士と東北大学との共同研究では、青年および若年成人における睡眠とリスクに関する意思決定についての調査が行われています。

次世代への投資

香港特別行政区政府は、教育と若い才能の育成に多額の投資を行っています。最新の2018～19年度予算では、政府の経常支出総額の20.8%に相当する846億香港ドル（約108億米ドル）を教育に割り当てており、これは単一の政策分野として最高額です。質の高い教育を継続的に実施するため、34億香港ドル（約4億3,600万米ドル）の追加予算を確保しており、今期政府が教育に重点を置いていることがはっきりと見て取れます。



2018年QSアジア大学ランキング上位10位に香港の4大学がランクイン。

2017/18学年度においては、大学教育資助委員会の補助を受けている8つの大学が約6,400人の交換留学生を受け入れ、期間が最低1学期の交換留学プログラムに約6,500人の学生を送り出しました。これらの交換留学生のうち、234人が日本に留学し、101人の日本人学生が大学教育資助委員会の補助を受けている香港の大学で学びました。

香港はまた、日本政府のプログラム「21世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS）」の下での交換留学を含め、短期の交換留学を歓迎しています。これらの交換留学は、日本・香港間の学術的、文化的理解を深める貴重な機会となっています。

国際的な学習環境

現在、香港には 50 以上のインターナショナルスクールがあり、日本をはじめ、イギリス、アメリカ、オーストラリア、シンガポール、フランス、ドイツ、韓国、カナダ、国際バカロレアなど、世界中のカリキュラムを提供しています。

1966 年に設立された香港日本人学校は、香港の教育制度にしっかりと根付いた存在です。1997 年には国際学級を併設する大埔校が開校しています。

こうしたインターナショナルスクールは、世界中から集まる外国人家族の子どもたちに質の高い教育を提供しており、外国人家族が働き、暮らし、学ぶのに素晴らしい場所として香港の評判を高めています。



香港には 50 以上のインターナショナルスクールがあり、日本を含む世界各国のカリキュラムを提供。